続・人はどんな「感情」で
なに「色」に染まるのか

田　中　　実

1. はじめに

『英語教育』2014 年 11 月号（大修館書店）に拙稿「人はどんな「感情」でなに「色」に染まるのか」が掲載されたが，そこで取り上げられた「色」は紙幅の関係で green, white, black［dark］, purple の 4 色［5 色］に限られた。そこで，本稿では blue［pale］, red, pink［rosy］, gray［grey］，その他（brown, orange, yellow）に拡げ考察してみたい。

その前に，上述の green, white, black［dark］, purple の場合はどうであったか。次章・次節にまず，その要点をまとめておこう。

2. 承　　前

2.1　green＋with＋「感情」名詞

英語の表現形式の 1 つに，「色彩形容詞＋with＋感情名詞」という形式が見られる（以下，下線は筆者による）。例えば，

（1）He was green with envy.

(1)は「彼は大変嫉妬していた」という意味であり，「顔色が青くなるほど妬んでいた」ことから「大変嫉妬していた」ことを表す比喩表現の一種である。もっと言うなら，安藤(編)(2011）によるまでもなく，イディオムの一種と考えてよい（ちなみに，*OALD*[8] も green with envy を IDM だとして，very

jealous の意味を掲げている)。

（2）She is green with envy because you have succeeded.（安藤(編), 2011 : 736)

(2)は「彼女はあなたが成功したのでひどく妬んでいる」という意味であるが，安藤(編)(2011 : 736）には，green with envy[jealousy, fear］とあり，「(顔色が青ざめるほど）ひどく羨んで[妬んで，恐れて]」と記されている。つまり，green という「色彩形容詞」が前置詞 with を介して結合する「感情」名詞には envy のみならず，jealousy, fear も可能だということである。

では，green と結びつくのは envy, jealousy, fear だけなのであろうか。COCA で「green with」で検索してみると，総数で 442 例あり，そのうち「感情」名詞との結びつきは (3)のようである（括弧内は用例数)。

（3）green with envy（56）/ jealousy（4）/ fear, fright, embarrassment, gloom, hope, suspicion（各 1）

(3)のように「嫉妬，恐怖，困惑，憂鬱，疑念」といった主にマイナスのイメージの「感情」名詞との結合が見られる。(ちなみに，BNC では 102 例中，envy (11)，jealousy（2)，fright（1)である。）このうち，embarrassment の例を見ておこう。

（4）The student flushed a deep green with embarrassment.

(4)は「すごくどぎまぎしたその生徒の顔は赤らんだなかにもひどく青ざめてもいた」といった意味で，green with がひとひねりされて，a deep green with のように green が名詞として用いられた変種である。

2.2 white＋with＋「感情」名詞

G[5], *W*[3]，安藤(編)(2011 : 1784）などでは，white と関わる「感情」名詞として，agony, fear, rage, terror といった語が掲げられている。では，COCA ではどうか。

「white with」で検索してみると総数 601 例中，「感情」名詞との結びつきは(5)のようなものである。

（5）white with fear（3）/ anger, fury, rage（各 1）/ apprehension, contempt, dread, excitement, outrage, terror（各 1）

(5)以外にも fear and sorrow and regret（1），rage and dismay（1），awe and concentration（1)といった変種も見られるし，「感情」として扱えるかもしれない shock（1)も見られる。（ちなみに，BNC では 183 例中，shock は 4 例あり，anger（9），fear（5），rage（4），fury（2），anguish, anxiety, distress, temper, terror, panic, passion（各 1）や one's hatred（1)の形での「感情」も見られる。）次は rage and dismay の例である。

（6）Two or three young men, their faces white with rage and dismay, began looking for him.

(6)は「怒りと失望で顔の青ざめた 2〜3 人の若者が彼をさがし始めた」といった意味である。

このように多様な「感情」で人は white になるが，文学作品では作家自身の創造力が発揮されたユニークな例も見られる。

（7）His face was white with ecstasy.（D. H. Lawrence, "The Ladybird"）

(7)は「彼の顔は恍惚とした表情で青ざめていた」といった意味を表し，ecstasy で人が white になるとは，日本人の発想ではなかなか浮かびにくい表現となっている。

2.3　black［dark］＋with＋「感情」名詞

COCA で「black with」を検索してみると，総数で 530 例が見られるが，「感情」名詞と結合する例はきわめて少なく，6 例しかない。その内訳は（8）のとおりである。

（8）black with anger, fury（各 2）/ rage, hatred（各 1）

ちなみに，BNC では 149 例中，「感情」名詞との結合例は 8 例で，その内訳は anger, rage（各 2），desire, distress, fear, fury（各 1）である。また，文学作品には white の場合と同様，COCA や BNC にはない，作家独自の創作例が見られる。次例を参照。

（9）She would come in, tired, laden with stung bags, to find him seated at the table staring at her, his eyes black with jealousy.
（D. Lessing, “The Other Woman”）

(9)では，green with jealousy ではなく，black with jealousy となっており，当該個所では彼の目がひどい嫉妬の目つきであったことが表されている。

こうした black とは対照的に，dark の用例は総数の割には多い。COCA で「dark with」を検索してみると，総数は 382 例だが，そのうち「感情」名詞との結合例は 43 例もあり，black の場合のヒット数が約 1% にすぎないのに対して，dark の場合のヒット数は約 11% にも及ぶ。そして，その「感情」名詞も実に多様である。(10)を見られたい。

（10）dark with anger（7）/ fear, fury, passion（各 3）/ concern, distress, horror, sorrow, worry（各 2）/ care, confusion, despair, excitement, hate, misery, mortification, outrage, pity, rage, sadness, wrath（各 1）

このほか，confused anger（1），barely controlled emotion（1）などの変種も見られる。

こうした「感情」名詞と結合する dark であるが，例えば，*G*[5] では限定用法で「陰気な」とか「(表情などが) 不機嫌な」の意味で give him a *dark* look（彼にむっとした顔をする）といった例が挙げられているにすぎない。ここで示したような叙述用法については触れられていないが，それはさておき，1 例だけ anger の例を見ておこう。

（11）His face turned dark with anger, then a moment later opened in a great laugh.

(11)は「彼は怒ってむっとした顔つきになったが，一瞬ののち，大きな笑い声をはじけさせた」といった意味である。ちなみに，BNC では総数 88 例のうち，「感情」名詞を従える例は 30 例で具体的には，anger（9）[an anger（2）]，rage（4），distress, emotion, fear, feeling（各 2），desire, despair, dislike, longing, passion, temper, understanding（各 1）である。このうち，

feeling と understanding はいずれも「同情，思いやり」の意味であるが，(12)に見られるように，形式は「色彩形容詞＋with＋感情名詞」であっても，「彼の目は黒っぽく，思いやりがあった」という意味で His eyes were dark and with understanding. と解釈されよう。

（12）His voice was filled with tenderness, his eyes dark with understanding, and she nodded, loving him more than ever at that moment.

2.4　purple＋with＋「感情」名詞

COCA で「purple with」を検索してみると，総数で 70 例あり，そのうち「感情」名詞を伴うのは 6 例である。ちなみに，BNC では総数 19 例中，「感情」名詞は rage が 1 例のみ。（13）は COCA の検索結果である。

（13）purple with rage（5）/ passion（1）

なお，*G*[5], *W*[3]，安藤(編)(2011）では（14)のような記述が見られる。

（14）turn[go］purple「with rage[in the face］怒って[顔が］真っ赤になる（*G*[5]）/ turn purple with rage[cold］怒りで顔が赤くなる［寒さで肌が紫色になる］（*W*[3]）/ go purple（in the face）((口))（怒って）赤黒い顔になる◆He went purple with anger. 彼は怒って赤黒い顔になった（安藤(編)，2011 : 1301）

(14)を見ると，purple については日本語では安藤流に「赤黒い」と取り，逆に，英語では上掲の検索結果からは *G*[5], *W*[3] 流に「感情」名詞としては anger よりは激しい怒りを表す rage が適切であろう。（ちなみに，*G*[5] では purple について「red と blue の中間色で，violet より濃い紫色を指し，日本語の「紫色」よりも赤に近い色を指すことが多い」とある。）

3.　blue[pale］＋with＋「感情」名詞

G[5], *W*[3]，安藤(編)(2011）で blue と pale に関する記述を見てみると，

(15)のようになっている。

(15) blue from[with] cold 寒さで青ざめた She turned[went, grew] pale with fear. 彼女はこわくて真っ青になった (*G*[5]) / blue with cold 寒さで青ざめた，非常に寒い go[turn, grow]pale 青ざめる (*W*[3]) / go blue (in the face)((口))(寒さで) 顔が青くなる He turned pale with fright. 彼は驚いて青くなった (安藤(編)，2011 : 153, 1199)

(15)を見る限り，pale with fear[fright]といった例は挙げられているが，blue については with を介して「感情」名詞を従える例は挙げられていない。なぜか。

これは，実際のところ，COCA で「blue with」を検索しても 271 例中，「感情」名詞を従える例は少なくて 1 例しかないからである。(16)がその 1 例である。

(16) I imagined an accompanying photo of him, his arm in a sling, his face bruised black and blue with pride.

(16)は「腕をつり包帯でつって，黒いあざが浮かぶ，いかにも誇らしげな顔の彼が写った添え写真を私は思い浮かべた」といった意味を表す。

この点は，BNC でも同様で，「blue with」の用例 81 例中，「感情」名詞を従える例は 1 例しかなく，それが(17)である([ ]は筆者による補足)。

(17) I'd no idea you weren't allowed to [smoke] until this huge screw bears down on me throwing a wobbler, going blue with rage.

(17)は「この大柄な看守が癇癪をおこして，怒りで青ざめて私を罰するまで，君がタバコを吸うことを許されなかったとは思いもよらなかったよ」といった意味を表す。

こうした「blue with」に比べ，pale＋with＋「感情」名詞の例はかなり多く見られる。(18 a)は COCA，(18 b)は BNC の検索結果である。

(18) a. pale with fear (5) [the fear (1)] / anger (4) [shock and anger (1)] / fury (3) / fright, terror (各 2) / anxiety, astonishment, delight, dread, excitement, grief, horror, mortification,

nervousness, pain, rage, resentment, responsibility, shock, worry（各 1）

b. pale with anger, fear, shock（各 4）/ fright（3）/ fury（2）/ annoyance, apprehension, emotion, excitement, rage, terror（各 1）

つまり，COCA では「pale with」の用例 73 例中，「感情」名詞を従える例は（shock, responsibility, pain を含めて）33 例，BNC では 44 例中，27 例であり，それぞれ，総数の約 45%，約 61% を占めている。なお，（18 b）に関して，BNC では（19）のような変種（27 例中に含む）が見られることにも注意されたい。

（19）pale with suppressed anger, shocked embarrassment, embarrassment and shame, the irritation（各 1）

次に，（18 a）と（19）のうち pale with the fear［irritation］の例を見ておくことにしよう。

（20）a. He stood wide-eyed and pale with the fear children have at being singled out.

b. . . . there were moments at which she showed herself, in the glass over the mantel, a face positively pale with the irritation that had brought her to the point of going away without sight of him.

（20 a）は「彼はびっくり仰天して，子供が選ばれたときに抱くような不安な気持ちで青ざめていた」，（20 b）の当該個所は「彼に視線をやらずに立ち去ろうとするぐらいいら立った，彼女の顔はまさに青ざめていた」といった意味を表す。

こうした検索結果に出てくる「感情」名詞とは別に，作家は pale を独特の「感情」名詞と結びつける。（21）を見られたい。

（21）She sat pale with anguish.（D. H. Lawrence, “The Shadow in the Rose Garden”）

(21)は「彼女は苦悩で青ざめてすわっていた［彼女はひどい苦悩の表情を浮かべてすわっていた］」といった意味を表す。

4. red＋with＋「感情」名詞

COCA で「red with」を検索してみると，総数で 430 例あり，そのうち「感情」名詞を従える例は 69 例（(24) のような「感情」名詞句および (25) のような片方のみの「感情」名詞も含む）で，その内訳は(22)である。

(22) red with rage (13) / embarrassment (12) / anger (11) / fury (10) / shame (7) / confusion, determination, glee, humiliation, indignation, irritation, joy, passion, regret（各 1）

他方，BNC では総数 109 例中，「感情」名詞を従える例は 25 例で，その内訳は(23)である。

(23) red with embarrassment (6) / anger, emotion（各 3）/ excitement, fury, rage（各 2）/ annoyance, fear, hatred, indignation, mortification, pleasure, temper（各 1）

しかしながら，この BNC では皆無であるが，COCA にはいわゆる「感情」名詞句の例が 5 例見られる。

(24) red with bottled fury, despair and rage, discomfort and a sort of choked anger, frustration and fury, fury and embarrassment（各 1）

さらに，(25)のように名詞句だが，片方のみが「感情」名詞の名詞句も見られる。

(25) red with heat and shame, annoyance and exertion（各 1）

そして，red の場合，(22)(23)に見られるように，マイナスのイメージの「感情」名詞だけではなく，少数ではあるがプラスのイメージの glee とか joy, pleasure といった語とも結合する。1 例を見ておこう。

(26) I looked at his pudgy face, red with glee . . .

(26)は「私は喜びで紅潮した彼のまるくふくれた顔をじっと見つめた」といった意味を表す。

以上のような，検索結果から言えることは，例えば，G^5, W^3，安藤(編)(2011)などの記述は十分ではない，という点である。(27)を参照。

(27)［怒り・恥ずかしさで］真っ赤になった，赤面した // Her face was［went, turned, burned］red with rage. = She was［went, turned, burned］red in the face with rage. 彼女の顔は怒りで真っ赤だった［になった］(G^5) / (怒り・困惑・恥ずかしさなどで)〈顔などが〉真っ赤になった►His face went［turned］red with rage. ≒ He went［turned］red in the face with rage. 彼の顔は激怒で紅潮した(W^3) / go red (in the face)((口))(怒り・恥ずかしさ・当惑で顔が)真っ赤になる・He went red with shame. 彼は恥ずかしさで真っ赤になった(安藤(編)，2011 : 1345)

(27)では，W^3の「(怒り・困惑・恥ずかしさなどで)」といった記述の仕方はコーパス検索での実態が反映された適切な記述であると思われるが，例えば，「怒り」で「真っ赤になる」といった例を挙げる場合，実態が反映された形でのいくつかの「感情」名詞を添えた go red with rage［anger, fury］といった記述にするほうがユーザーフレンドリーであると言えよう。

5. pink［rosy］+ with +「感情」名詞

COCA で「pink with」を検索してみると，総数で 148 例あり，そのうち「感情」名詞を従える例は 11 例，BNC では総数 35 例中，16 例で，BNC の場合，約 45% が「感情」名詞の例である。COCA と BNC の内訳はそれぞれ，(28 a, b)である。

(28) a. pink with embarrassment (5) / pleasure (2) / excitement, rage, relief and gratitude, shame (各 1)

b. pink with pleasure (5) / excitement (4) / anger, embarrassment

（各 2）/ gratification, indignation, self-importance（各 1）

(28 a)からは embarrassment，(28 b)からは anger の例をそれぞれ，見ておくことにしよう。

（29）a. Sarah turned pink with embarrassment.

b. She could see the landlady peering from the doorway of the writer's room, pink with anger.

(29 a)は「サラは当惑して顔を赤らめた」，(29 b)は「怒って顔を赤らめた宿の女あるじがその作家の部屋の戸口からのぞいているのが彼女にはわかった」といった意味を表す。

ちなみに，G^5, W^3，安藤(編)(2011)には pink が with を伴って「感情」名詞を従える例は挙げられていない。(もっとも，G^5 には Her cheeks were pink with health.（彼女のほおは健康的でピンク色だった）といった「感情」名詞以外を伴う例は挙げられている。)

また，G^5 には（30)のような記述が見られる。

（30）rosy バラのような，ばら色の；〈顔色などが〉［健康で］赤い，ピンク色の［with］《◆ピンクと同じ連想を伴う》// *rosy* lips and cheeks 赤い唇と頬

(30)では「rosy は pink と同じ連想を伴う」とされているので，例によって COCA と BNC で「rosy with」を検索してみよう。

そうすると，BNC では 1 例のみで「感情」名詞を従える例はゼロであるのに対して，COCA では 21 例中，（31）のような例が 5 例，見られる。

（31）rosy with embarrassment, excitement（各 2）/ sorrow（1）

具体例を次に見てみよう。

（32）a. Her face grew rosy with embarrassment, and even with sorrow.

b. Instead of being greenish, Melvin's face was rosy with excitement and acne.

(32 a)は「彼女の顔は困惑して，さらには悲しみで赤くなっていた」，(32 b)は「メルビンの顔は青白いどころか，興奮とにきびで赤みをおびていた」とい

った意味を表す。

6. gray[grey]＋with＋「感情」名詞

G[5] と *W*[3] の gray に関する記述を見ておくとそれぞれ，(33 a, b)のようになっている。

(33) a.〈顔・皮膚などが〉(病気・疲れ・不安などで) 青ざめた［with］// His face was gray with shock. 彼の顔はショックで青白かった

b.《疲労・恐怖・悲痛・体調不良などで》〈顔・皮膚などが〉青白い (pale) «with» ►Meg's face was grim and gray. メグの顔は厳しく青ざめていた

こうした記述を踏まえて，COCA と BNC で「gray[grey] with」を検索してみるとそれぞれ，総数で 188 例，77 例あり，そのうち「感情」名詞を従える例は 3 例，8 例である。

(34) a. gray with worry (2) / remorse (1)

b. grey with fear, shock (各 2) / fearful apprehension, hatred, misery, outrage (各 1)

(34 a, b)を見る限り，(33 a, b)のような記述ではもの足りないが，それはさておき，gray[grey] がそれぞれ，worry と hatred と結びつく例を見ておこう。

(35) a. My father's face is gray with worry and he's begging.

b. His face was grey with hatred and I wondered if he was going to hit me.

(35 a)は「心配で顔が青ざめた[非常に心配した] 親父が頼み込んでいるのだ」，(35 b)は「憎しみで顔の青ざめた[非常な憎しみの表情を浮かべた] 彼が，この私を殴るつもりなのかしらと思った」といった意味を表す。

7. brown［orange, yellow］+ with +「感情」名詞

最後に，brown, orange, yellow について見ておきたい。COCA で「brown［orange, yellow］with」を検索してみると順に，1/263, 0/80, 0/146（「感情」名詞／総数）となり，BNC でも大して変わらずそれぞれ，0/53, 0/9, 0/41 となる。つまり，brown の場合のみ，「感情」名詞を伴う例が COCA で 1 例見られる程度である。それも，(36)に見られるように dark brown の形であり，さらに，red と並行して用いられている点に注意されたい。

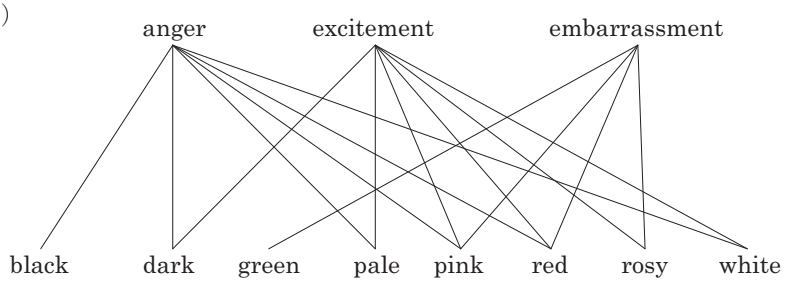
（36）As soon as the tinkle of their earings and the groans of their bears were heard in the alleys, Mother's white skin would turn red, then dark brown with anger.

(36)の当該個所は「母の白い肌はよく怒りで真っ赤からこげ茶になることがあった」という意味を表し，例えば，「非常に怒った」というような比喩表現というよりはむしろ，文字通り，「肌」の「色」の変化が描かれていると言えよう。

8. おわりに

以上，人はどんな「感情」でどんな「色」に染まるのか，といったテーマで論を展開してきたが，英語の世界で，例えば，「人は怒る［困惑する，興奮する］となに色になるのか」といった表現形式については実は，従来，あまり取り上げられたことはなかった。そこで，本論ではその点の探究を試みたわけであるが，結果についての詳細は本論の各章・各節で見ていただくことにして，ここではまとめの代りに，上の「怒り（anger）・困惑（embarrassment）・興奮（excitement）」の 3 つの「感情」について，それらが原因で人はなに「色」に染まるのかを見ておきたい。

(37)



(37)の意味するところは，black/dark/pale/pink/red/white + with + anger, dark/pale/pink/red/rosy/white + with + excitement, green/pink/red/rosy + with + embarrassment という繋がりが見られるということである。つまり，「怒り（anger)」という「感情」を例にとるなら，人は怒ると black にも dark にも pale, pink, red, white にもなるということである。

参考文献

論文

田中　実「人はどんな「感情」でなに「色」に染まるのか」『英語教育』2014 年 11 月号　pp.67–69

辞典

安藤貞雄(編）2011『三省堂　英語イディオム・句動詞大辞典』（東京：三省堂）［安藤(編）(2011)］

井上永幸・赤野一郎(編）2013『ウィズダム英和辞典　第 3 版』（東京：三省堂）［*W*[3]］

南出康生(編集主幹）2014『ジーニアス英和辞典　第 5 版』（東京：大修館書店）［*G*[5]］

Oxford Advanced Learner's Dictionary 8th Edition［*OALD*[8]］

コーパス

BNC（http : //corpus.byu.edu/bnc/xasp）

COCA（http : //corpus.byu.edu/coca/）

――文学部教授――